

人類学演習Ⅲ 談話会

日時： 5月 15日(金) 16:30~18:00

場所： 理学部 2号館 402号室

〈講演者〉

針原 伸二先生

(東京大学大学院 人類生物学・遺伝学研究室)

〈講演テーマ〉

ミトコンドリアDNAおよび他のDNA多型からみた日本人とアジア人

〈内容〉

ミトコンドリアDNA (mtDNA) は変異に富み、ヒトの集団間の関係や過去における集団の移動など人類学的な研究に用いられてきた。

世界の集団について、いくつかの制限酵素を用いた多型分析では、ヒト集団は大きくアフリカ系と非アフリカ系に分けられるとがわかり、現代人のアフリカ単一起源説を支持する結果といえる。制限酵素 Hinc II による切断型多型と 9塩基対欠失の頻度分布からは、東部アジアの集団は大きく4つのグループに分けられることがわかった。

最近、住 斉 (すみ ひとし)・筑波大学名誉教授を中心に飛騨地方の集団についてシーケンシングによる mtDNA のハプログループ分類を試みている。

既に、いくつかの日本人地域集団および縄文・弥生の古人骨についてのハプロタイプ分析がなされており、これらのデータとの比較検討を進めている。日本人においては縄文系と特定されるハプロタイプと渡来系と見なすことができるハプロタイプがあり、日本人の中の各地域集団において、縄文人を祖先とする人たちと渡来系弥生人を祖先とする人たちとの比率を求めることがわかった。

そのほか、アジア諸集団についての β グロビン遺伝子領域のハプロタイプ分析 (清水宏次・鳴門教育大学名誉教授ら)、皮膚色に関係するOCA II 遺伝子多型分布についての研究 (湯浅勲・鳥取大学准教授他) の結果についても報告する。

今後の予定

5/22 青木研

5/29 河内先生

担当 井原研：小森 敏